

# SOTOKU

崇徳学園同窓会  
関東支部  
会報  
— 第24号 —

発行：崇徳学園同窓会関東支部 編集：支部事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷4-37-20

ホテル機山館

http://www.geocities.jp/sotoku\_kanto/ mail:sotoku\_kanto@yahoo.co.jp TEL (03) 3812-1211(代) FAX (03) 3816-1218

## クリエイティブ(創造)とエデュース(能力引出し)の社会を目指そう。すべての基礎は教育です。 — 幅広い人材教育の母校をみんなで支援しましょう!! —

崇徳学園同窓会関東支部会長 黒川 弘 (昭和33年卒)

日本も世界も激動。世界では、2014年ソチ五輪時のウクライナ政権交代とクリミア半島のロシア編入、7月イスラエルとガザ地区ハマスの紛争2千人超の死者、9月ISテロでのイラクとシリア攻撃と両国の反撃や米国等支援国の爆撃。エボラ熱感染1万人超。暗殺映画会社へのサイバー攻撃と北朝鮮制裁、中国の海域紛争や民族紛争、北朝鮮のミサイル紛争等、香港や台湾での学生紛争、タイ軍事政権成立、マレーシア航空機の不明者239人とウクライナでの墜落事件298人死亡、韓国旅客船セウォル号沈没304人死亡、2015年もパリ郊外のイスラム風刺画批判17人殺害、ISによる日本2人拉致殺害、チュニジア博物館観光客21人殺害日本3人、ドイツ航空機の仏領での墜落71人死亡日本2人、イエメンの政権紛争激化、ケニアの大学襲撃テロ事件等々。原油価格の大幅下落1/2へ、米国政権の中間選挙敗北と金融緩和基調の転換、ギリシャ等EU経済の複雑化、環太平洋TPP交渉継続、チリCOP20地球温暖化会議、アジアインフラ投資銀行の動き、仙台での第三回国連世界防災会議等々。日本では消費税8%へ増税、第二次安倍内閣の地方創生と女性活躍、金融緩和の拡充、年末解散と第三次安倍内閣発足「改革断行」。集团的自衛権問題、外交では韓国、中国、北朝鮮の調整複雑化。災害も2月大雨や9-10号台風、8月広島土砂崩壊74人、9月御嶽山噴火63人、11月長野地震や大雪が。オメダタはノーベル物理学賞に青色LED発明の赤崎、天野、中村三人の受賞、出雲大社千家邦麿氏と典子様御結婚、ソチ五輪で羽生結弦優勝、全米テニス錦織圭準優勝、富岡製糸場の世界遺産登録等が。安倍総理は施政方針演説で、改革の断行・女性の活躍・農協中央改革・社会保障改革の推進、成長主役の地方の創意工夫を全力支援、「子ども達の誰もが自信をもって学び成長できる環境」の重要性を御指摘。今後、クリエイティブ(創造)とエデュース(能力引出し)の重要性が教育の場でも認識されると思います。

助けあい支えあいの仏教精神のもと知徳体のバランスのとれた全人格教育を目指す母校は、本年も将来を担う高校448名、中学72名の新入生諸君を迎えました。在校生は1461名です。また高校卒業は417名で、大学進学でも、浪人を含む合格者延数は、国公立大66名、私立大等633名合計699名と大活躍です。国公立大では、大阪大2、九州大、筑波大、横浜国立大、首都大学東京2、広島大7、鳥取大4、島根大3、山口大10、愛媛大3、香川大2、徳島大、宮崎大、県立広島大2、広島市立大4等が、関東私立では、明治大4、立教2、中央3、法政4、東京理科大3、日本大5、東洋6、専修7、東海10、芝浦工大23等、関西では関西大10、関西学院大9、同志社大10、立命館大20、龍谷大35等が、また地元広島では、広島経済大32、広島工業82、広島国際42、広島修道74、広島国際学院大9、東広島近畿大18、比治山8、広島文化学園3、広島都市学園7、福山大7、福山平成3等の合格。進学された大学生の皆様のご発展を期待します。

スポーツでも母校は大活躍で、本年1月5-7日の東京体育館での第67回全国高校バレー選手権では三回戦に進出、3月20日と21日の日本武道館での第37回全国高校柔道選手権には、個人戦の60kg東亮輝君、73kg助永洗太君、90kg級中村優斗君、無差別級井上大虎君及び団体戦に母校の元気な後輩が熱戦、助永君は準決勝進出の活躍で、関東の同窓も熱の籠った応援をしました。また昨年夏の全国高校総体は南関東で開催。ボクシング、柔道、バレー、テニス、体操、バドミントン、フェンシングの7種目に出場し、柔道の香川大吾君とボクシングの原田直樹君が見事優勝。楽しい応援でした。なお兵庫での第59回全国高校軟式野球では母

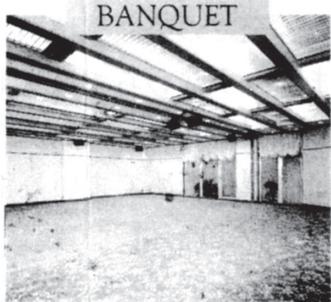
## 7月3日(金) 18:00より本郷三丁目に集まろう。

都心に近く、騒音に遠く交通至便の所  
優雅・閑静本郷唯一の

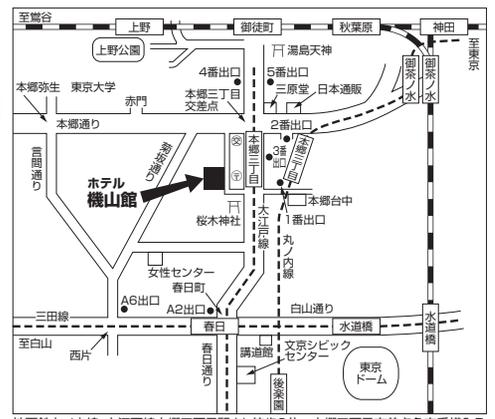
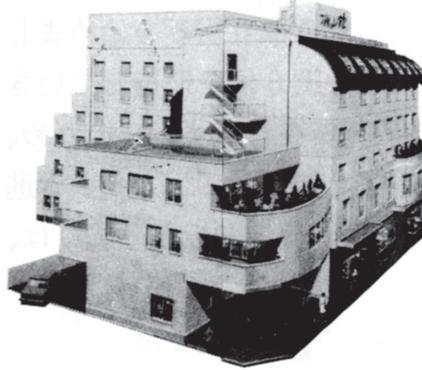
ホテル機山館

代表取締役 重本康成  
(昭和48年卒)

株式会社 機山館  
〒113-0033  
東京都文京区本郷4-37-20  
TEL (03) 3812-1211(代)  
FAX (03) 3816-1218



最新の設備を整えた宴会室。  
大小50所の部屋(5名~150名収容)をご用意。  
照明、音響など、これをとっても重厚かつ格調ある空間づくりです。  
会議室としてもご利用いただけます。



地下鉄丸の内線・大江戸線本郷三丁目駅より徒歩2分 本郷三丁目交差点角交番横入

校は準決勝で中京高校と対戦し4日間延長50回での決着となり全国紙にもトップで二回も報道され素晴らしい試合でした。

さて関東支部は500名余の会員ですが、26年度の総会は、7月5日（土）にS48 重本康成氏経営の文京区「ホテル機山館」で開催。当日は関東支部の関係の皆様はじめ、本部からS33 高橋乗宣理事長、吉田義視校長、S51 山本千曲同窓会長来賓等総勢約50名余の参加でした。私は、大学進学者へのお祝いとS49 倉本昌弘氏が全日本プロゴルフ協会の会長に就任されたお祝い、同窓会活動の一層の充実の挨拶をし、山本同窓会長から幅広い同窓会活動の推進、高橋理事長から母校の140年への教育強化の方向、吉田校長から国公立を含む大学合格の大幅な成果とスポーツ選手の活躍などの御挨拶がありました。

その後、経済学者でもある高橋理事長から「百年単位でみた長期的な世界経済の動向と大転換期の現在」の講演があり、日本の経済の行く末についての深く幅広い内容に、一同感銘しました。懇親会は、S16年卒の西村克哉氏（90歳日米二つの祖国）の元気の乾杯の音頭で始まり、日本ルーマニア音楽協会の山川寛子さんのサクソフォン演奏（二葉山の校歌も）も楽しみ、同窓会本部の中川副会長、田部事務局長を含む全員が自己紹介をし、とりわけ東京広島県人会で会員拡大に努力中のS49 津川博光氏・H7 小川善之氏・県人会広報部長重本ゆりさん（重本局長妹）のお話に注目が。落語家のS44 古今亭菊丸・S50 柳家福治の両師匠が進行のビンゴゲームも楽しみ、全員で校歌を斉唱しS23 渡部昭彦代表幹事の挨拶でお開きとなりました。この同窓会の風景は東京広島県人会の10月のニュースにS49 津川幹事投稿の崇徳同窓会の紹介記事が掲載され幅広い関心を集めました。今年の総会は7月3日（金）の夕方開催です。本部の同窓会長、校長、理事長もご出席の予定で母校の活動報告もあります。青壮老の皆様幅広い出席で第28回の総会を大いに盛り上げましょう。大学生は無料。声を掛け合いのご参加や一人でのご参加、家族同伴の参加も歓迎します。

昨年11月のANAホテル広島での本部同窓会には私と渡部代表幹事、小笠原・室崎両副会長と三雲幹事が出席し、私が締め挨拶と関東支部の現況の報告をしました。懇親会では、現役グリークラブの生徒さんの素晴らしい合唱に続き、同窓会長山本千曲様から幅広い同窓活動の一層の推進の決意表明と高橋理事長、吉田校長の御挨拶がありました。また、昨年一時活動休止後の、新しい崇徳同窓会関西支部の11月創立総会と3月第一回総会には私と瀧口副会長が出席し、お祝いを申し上げます。

同窓のご活躍としては1月29日の東京広島県人会総会では組織が「一般社団法人」に改編されS24 岩部金吾氏が引き続き副会長に推挙されました。また有名人紹介ではS50 柳家福治師匠が壇上で紹介され、会場が盛り上がりました。落語の菊丸師匠・福治師匠には地元横川会での活躍、池袋演芸場での落語二人会や上野鈴木本演芸場・新宿末広亭での共演等、健康増進は「笑い」からの社会意識の中で幅広く活躍され、また菊丸師匠は10月NHKラジオ第一「真打競演」に続き、NHK総合テレビ日曜早朝5時15分「演芸図鑑」出演で全国への芸のご披露があります。またプロボクシングのH19 恩原健太君の3/16 後楽園ホールもみんなで応援しました。

執筆では高橋乗宣氏と浜矩子さんの共著「2015年日本経済」（東洋経済新報社）では、「遅れて登場した大国・中国」の社会的責任のある「大人度」が問われおりその自覚と、地球的規模での「多角的協調の枠組」を人類史上初めて打ち出せるかが問われるとのご指摘と日本の経済再生では独自のノウハウや技術を持つ中小中堅の企業を基礎に地方企業が掘起す地方再生が大切との指摘が。毎週末の日刊ゲンダイでの経済コラムも楽しみです。私も現在、地域の元気を立ち上げる「地域マネジメント学会」の会長をし、また世界的な幅広い情報や人脈と連携の強化で推進する日本の地域づくりについて国土交通省関係「国づくり・地域づくりの情場研究会・10回開催」の委員も務めました。

さて我々同窓は、母校の活動の強力な支援とともに、新しい社会づくりや地域づくりに家庭、地域、学校の総ぐるみの活動の中で、経験の語りや行動で積極的に「絆」社会の構築に参加しましょう。同窓会は母校への思いを基礎に「青壮老」全員参加です。学生さんも、現職の方も、会社を卒業され地域や孫教育や趣味やスポーツに意欲的に参画されている方も、是非積極的に御参加下さい。ゴルフ会も多くの方が楽しんで活躍中です。幹事への自薦他薦大歓迎です。幹事会は渡部代表幹事、瀧口総括、重本局長のご指導の下、年5回程度です。「崇徳応援旗」もあり、生徒さんやOBの活動の応援に必要なときは皆で一緒に駆けつけましょう。宜しく願います。 合 掌

## 軟式野球部のご報告

崇徳高校軟式野球部 部長

樽本 秀幸

まず、昨年兵庫県で開催された第59回全国軟式野球選手権大会では、崇徳学園同窓会関西支部の諸先輩方をはじめ、多くの方々にご声援をいただきました。厚く御礼申し上げます。

崇徳高校軟式野球部は1973年の創部以来、「全国制覇」という目標のもと日々汗を流しています。創部当時は河川敷での練習が主でしたが、その後大芝公園、NHKグラウンドと活動拠点を変え、現在に至っております。

昨年は12年ぶりに5度目の全国大会出場を果たし、岐阜県の中京高校と4日間、延長50回にわたる死闘を繰り返すという貴重な体験をすることができました。結果としては0-3で敗れましたが、この経験は軟式野球部にとって決して忘れられないものとなりました。国体出場とあわせ、意義深い1年となりました。

このような思いもよらない形で結果を残すことができましたが、この結果に慢心することなく、未だなしえていない「全国選手権制覇」という目標のもと今後も精進してまいります。ご支援のほど、宜しく願います。

## 高1は12クラスでスタート、今年も期待のクラブたち

崇徳中学高等学校 校長  
吉田 義視

先ずは昨年度のご報告から。関東支部のみなさまには南関東インターハイで、また首都圏で開催された全国大会で、盛大なご声援をいただきましてほんとうにありがとうございました。お陰様で昨年度は二人の選手によって4つの“全国優勝”を獲得することができました。柔道の香川選手のインターハイ優勝、ボクシングの原田選手の選抜優勝、インターハイ優勝、国体優勝です。また、全国大会の常連となっているたくさんのクラブが世間様に恥ずかしくない堂々とした試合をすることができました。優勝は叶いませんでしたが良好な成績を収めることができました。バレーボール部や弓道部はインターハイで多めに活躍しましたし、関西で行われた試合ながら軟式野球部は50回の延長試合を戦い抜きました。今春の春高バレーも復活を果たしてまた出場回数を伸ばしました。昨年春には先述の香川選手が歴代最年少の記録で全国柔道選手権への出場を果たし、続けて今春も連続出場を果たしました。今年の大会は上川、下和田、香川と3人の崇徳OBが出場する華やかさでした。また、3月の選抜大会ではボクシングにも原田選手の後継が誕生し、高校2年になった田村選手がライトフライ級で選抜大会優勝に輝きました。近年の崇徳は全国優勝が毎年のこととなった観があります。

野球は春季大会で好調でした。軟式は優勝し、硬式は広陵に破れましたが準優勝することができました。夏の大会に向けてともに頑張っています。軟式は昨年に続いて全国大会出場を果たし、上位を狙ってもらいたいものです。硬式も甲子園を踏まないこと20余年、今年こそは出場の期待が実現されるものと、これまた大いに楽しみにしている次第です。

現在（5月中旬）、地区大会を突破して広島県大会への出場権を得たクラブは18部、230人以上の選手たちが県大会を戦います。勝ち抜いて、今年もまた、たくさんのクラブが南近畿インターハイへの出場権を得るものと期待しています。日頃の鍛錬が報われ、また試合を通して強くなってくれるようにと願わずにはおられません。

続いて大学合格状況をご報告します。国公立大学へは66人が合格しました。昨年の87人に比べると人数は減少しましたが、現役生の合格数では昨年を超えました。首都圏では早慶を逸しましたがMARCHで19人、日大5人、専修7人、東洋6人、東京理科3人、

近畿の関関同立は49人、関係校である龍谷大学へは35人が合格しました。近年は入試方法が多様化し生徒たちは自分に最も適切な試験方法を選びます。その指導もまた多様であらねばならず、先生たちは1人1人に合った細やかな指導を続けています。一方、経済状況からしてまだまだ地元志向は強く、広島修道大への志望者は高い数字が続いています。そのような中、今春は74人が合格して、現役生だけでも実数44人が入学しました。地元志向のニーズにも応えられた堅調な合格状況でした。

さて、この1年間、広島には悲しい事もありました。8月20日の未明に降った大雨による安佐南区と安佐北区での土砂災害です。多くの方が犠牲になりました。崇徳の関係には亡くなった方や怪我を負った方はありませんでしたが、生徒の家が浸水する被害がありました。安佐地区の公立中学校からは毎年多くの入学者を迎えますが、それらの学校でも生徒が亡くなったり被害に遭ったりしたところがありました。お見舞いに駆けつけると、グラウンドは救助隊の車で埋まり、体育館は宿舎となっていました。公立高校では亡くなった生徒がいました。被災後の救援活動として、本校の多くの生徒たちが後片付けのボランティアに参加するなどしました。軟式野球で50回を戦った岐阜県の中京高校からは多額の義援金が届きました。本校を通して被災地に届くようにと軟式野球部の生徒を中心に集められたということでした。崇徳生たちは友を亡くし知り合いを亡くしましたが、その後で人の暖かな気持ちを戴いて、感動感激することにもなりました。

最後に今春の入学者についてご報告します。中学校は72人の新入生を迎えました。昨年までは新入生の学力幅がとても大きくて支障も出ていたので、今春は思い切って合格最低点を上げ、僅かですが学力幅を整えました。結果、72人という前年より10人少ない人数になりました。しかし、この方向で高い教育効果をあげるべく頑張る指導していくつもりです。高校は予測を50人上回り、450人の新1年生です。久しぶりに12クラス編成となりました。

今年度もみなさまの母校“崇徳”は元気でづくりに励んでまいります。同窓生諸兄におかれましては、ますますのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 母校後輩達への更なるご声援を!!

崇徳学園同窓会会長  
山本 千曲

同窓会関東支部の皆様、いつも同窓会活動に際しては深いご理解と物心共に多大なるご協力を頂き誠にありがとうございます。

また昨年8月20日に広島市北部で発生した豪雨土砂災害においては、尊い人命と被災により多くの財産も失われ、本当に大変な一年でしたが、その際関東支部の皆様にもご心配とご支援を頂き改めて御礼申し上げます。

さて昨年11月14日にANAクラウンプラザホテル広島にて開催い

たしました同窓会総会・懇親会におきましては、ご遠方より関東支部から黒川会長様や支部の皆様、新たなスタートとなった関西支部の久保田会長様や支部の皆様はじめ多くの皆様方にご来場いただき、年代を超えて同窓の輪が大きく広がり盛大な会になりましたこと、重ねて御礼申し上げます。

昨年度の同窓会の取り組みと致しましては、定例の正副会長会議、幹事会を数回づつ開催、同窓会総会懇親会に向けての準備を当番幹事

**BX**  
文化シャッター  
Go! Next 60  
おかげさまで60周年

代表取締役会長  
**岩部 金吾** (S24年卒)

文化シャッター株式会社  
〒113-8535 東京都文京区西片1丁目17-3  
TEL.03(5844)7111  
<http://www.bunka-s.co.jp/>

ビルや店舗などの通用口などに

### 浸水対策を1枚のドアで。

非常時は「レバーを水平に引き上げる」だけ。扉が枠に密着し、屋内への水の浸入を抑制します。

- 高い止水性能
- 軽い操作性
- 優れたコストパフォーマンス

止水ドア  
**アクアード** 新製品  
(片開きスチールタイプ)

シャッターまたはフロントのある開口部に

### 急な増水時もスピード設置。

女性ひとりで持ち運びできる軽さで設置もカンタン。土のうのデメリットを解消し緊急時に備えます。

- 軽量
- スピード設置
- コンパクト収納

簡易型止水シート  
**止めピタ**  
土のうに比べて10倍以上の止水性能!

の皆さんと進めてまいりました。また「顔の見える同窓会」として、PTAとの懇談会や、崇徳祭への出店で同窓会の存在感を大いにアピールいたしました。また文武両道の母校の教育振興を資する目的である奨学金制度による生徒への助成、またクラブ活動への激励費奨励費としての補助、そして芸術鑑賞への補助など現役生への出来るだけのサポートと、卒業生全員へ記念品の贈呈など、同窓会でしか出来ないしっかりとした活動を行ってまいりました。

特に関東支部の皆様には、柔道部・バレーボール部・ボクシング部など全国大会への出場に際し、ご多用中の処多くの皆様に会場に駆け付けて頂き母校後輩達への精一杯のご声援を頂き、お陰で大きな成果を上げてくれました。これからも文武両道を目指す母校に対し、後輩

達への更なるご声援を重ねてよろしくごお願い申し上げます。

同窓会と致しましては更に今まで以上に行動範囲を広げ、各支部はもとより各クラブOB会にも出向かせていただき、皆様方からのご意見やご要望をしっかりと伺いし、できる限り同窓会に反映させ、より多くの皆さん方との親睦が図られ誇りのもてる母校発展の一助となるよう、今年度も更なる活動の幅を広げ、より一層存在感のある同窓会をめざして頑張る所存です。

最後になりましたが、これからの学園の発展と関東支部の皆様方の益々のご健勝を心から念じ並びに同窓会へのますますのご支援を心からお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

取締役会長

**瀧口 裕行** Hiroyuki Takiguchi

**株式会社 アルファワールド**

〒194 - 0032 東京都町田市本町田197 - 10  
TEL. 042 - 812 - 3005 FAX. 042 - 812 - 3005  
E-Mail jose-hiroyuki@ab.auone-net.jp



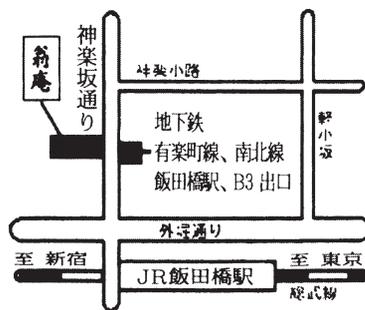
中国醸造

お酒は20歳を過ぎてから。

54年卒 光若 由啓 電話 03-5475-6051

おきか  
**生粋心 翁庵**

東京都新宿区神楽坂1-10 アイダビル  
PHONE 03-3260-2715



嘶家

柳 泉 福治

FAX 五十年卒 本名 山中英嗣  
03-5371-1802

古今亭 菊丸

電話 四四年卒 本名 占部正夫  
FAX 03-3845-4179  
Email Ushio@aol.com

パーティー・結婚式の司会・余興  
ゴルフ・旅のお供  
引越しの手伝い  
落語会等、その他何でもお電話ください

酒 王



平成2年卒 西岡 智生 電話 03-3664-1029

〒162-0821  
新宿区津久戸町1番地12号 中村ビル1F  
TEL. 03-3260-5888  
電話注文・お持ち帰りも出来ます。



崇徳学園理事長

高橋 乗宣

## 節目の年を迎えた母校

関東一円では、今年も降雹、竜巻、さらには桜の季節に戻り寒といった具合で、一昨年、昨年と同様に、今年も又、かつて無いような異常気象に見舞われていますね。豪雨禍は全国各地を襲っております。広島でも、昨年夏には安佐南区、安佐北区が大規模な土砂災害に見舞われ、74名の人命が失われました。グリーンランドや北極海の氷も融けてしまったようですし、どうやら地球全体が壊れ始めているようですね。このように異常な環境の中ではありますが、崇徳同窓の諸兄にはお変わりなくお元気でご送日のこととお慶び申し上げます。

さて、崇徳が、明治8年(1875年)に学仏道場として開学してから、今年が141年目となります。開学後70年を経て71年目に原爆が投下され、市内で家屋の移転・整理作業に動員されていた五百余人の崇徳生が犠牲となりました。そして今年が、被爆後70年目となります。次の70年は一体どうなるのか、学園にとっても大きな節目の年です。

この140年間には、日清、日露、満州事変から太平洋戦争と、幾多の戦乱を潜り抜ける苦難の歴史がありました。また、バブル経済の真ただ中で利権がらみの不祥事が出来し、10年以上にわたる外様支配も経験しました。こうした苦難の歴史を乗り越えて、学園はすっかり健全な姿を取り戻しています。全学の生徒数は中高合わせて概ね1400名を保ち続け、財務状態もほぼ理想的な均衡状態に復帰しております。

141年目に入って、崇徳はまさしく「新たなる始まり(本願寺光真門主のお言葉)」にあると言えます。

とはいえ、若者たちが生き抜いてゆかねばならないこれからの国内外の環境は、決して平穏なものでは無さそうです。東西冷戦という厳しい対立枠の中では表面化しなかった民族対立や宗教対立、領土・領海問題、さらには世界の通貨や開発金融をめぐる覇権争い等々、今、世界は乱戦状態にあるとさえ言えそうです。これからの若者達は、こうした中をグローバルな人材として駆け回り回ることが求められるわけであり、やはり、彼らの前途もまことに多難だと言わねばなりません。

こうした厳しい時代を生き抜いてゆく上でも、「崇徳興仁」で結ばれた同窓の輪が、非常に大きな力になることなのでしょう。母校と後輩たちへ、今後とも引き続きご支援とご協力を賜りますように、心底より念じております。

顧問

鴨谷 祐子

## インターアクトクラブ近況報告

インターアクトクラブは、人と人との関わりを大切に、相手を思いやる心、自ら課題を発見し解決していく力を身につけるために、日々ボランティア活動に励んでいます。主な活動としては、学校周辺の清掃活動、社会福祉協議会から依頼のあったボランティア活動、募金活動等です。

昨年8月に起こった広島土砂災害では、ボランティアに数回参加し、土砂のかき出しなどのお手伝いをしました。災害による被害は甚大で、被災地での活動は想像以上に力のいるものでした。そこで、さらに多くの崇徳生に声をかけて活動をしたいと考えた部員が校内で募集をかけたところ、100人近くの生徒が集まりました。汗と泥にまみれながら笑顔で土のう袋を運んだり、土砂の撤去をしている生徒の姿は普段以上に頼もしく、重労働をものともしないその姿に、私たちも感動しました。崇徳中・高校生が一体となったこの活動は、彼らの心にも深く刻み込まれたでしょう。参加した生徒からは、「自分が想像していた以上に被害は大きく、現地に足を運べてよかった。」「自分たちができることは小さなことだったけれど、少しでも被災地の人たちに協力できて光榮です。」「思っていたよりまだ復興がすすんでおらず、驚いた。」などの感想があげられました。ボランティア活動の意義をたくさんの生徒に伝えることができたことは、インターアクトクラブにとっても嬉しいことでした。今後も何らかのかたちで被災地支援をしていければと思っています。

さらに、2015年5月21日には、ロータリー・クラブが提唱するインターアクト・クラブとして認定され、広島安佐ロータリークラブの方々と連携しながら活動することとなりました。これまで以上に幅広く活動し、個々の部員が社会に貢献できる人材になってくれることを期待します。

### 崇徳高校バレーボール部

### 創部70周年記念行事のご案内

#### 創部70周年記念パーティーの開催

日時 2015年9月19日(土) 13:00~15:00

場所 広島市中区基町6-36 メルパルク広島

電話番号 082-222-8501

ホームページ <http://www.mielparque.jp/hiroshima/>

記念誌の広告募集受付 連絡先 樋内 090-1014-9126

崇徳高校バレーボール部は、原子爆弾投下により校舎も被災した昭和20年に産声をあげ、今年無事創部70年を迎えました。

その間、全国制覇を17回行う等、名門校として仲間入りをさせていただき、多くの名選手、指導者を輩出できましたことは、ひとえに皆様方からの温かいご支援ご声援のおかげと感謝しているところでございます。

このたび、創部70周年の大きな節目を迎えるにあたり、崇徳高校バレーボール部は、OB会が中心となり、創部70周年記念行事を行う運びとなりました。

## 文芸部近況報告

崇徳高校文芸部顧問

花岡 健吾

本校の中でも地味な文化系クラブではあるが、文芸部はその中でも最も文化系クラブらしいクラブといえるかもしれません。一時は部員不足で開店休業状態であった文芸部もここ数年安定した部員確保に成功しており、細々とではありますが活動を行っています。

主な活動としては週に3回、図書室の片隅のテーブルを囲んで、各自が思い思いに考えたお題を3つ使ってショートショートを作る「三題断」を作ったり、話題の小説や作家について感想や意見、批評を述べ合ったり、文芸作品を作るための設計図ともいえる「プロット」を各自で発表、批判し合ったりするのが主な活動です。部員一同楽しくクラブ活動をしています。

近年では11月に開催される「崇徳祭」で文芸部誌として作品集をまとめ、配布することを一年間の目標として、実行してきています。

まあ、近年話題となっている「ビブリオバトル」にも挑戦し、昨年度は「全国高等学校ビブリオバトル2014中国大会」にも部員が参加しました。残念ながら結果は一次リーグ敗退でしたが、その勝者はその後行われた全国大会でも決勝進出するほどの実力者であり、色々な意味でも満足感が得られた大会でもありました。

文化系のクラブも積極的に校外へ出て頑張る時代です。グリークラブや新聞部に負けないように、文芸部もより一層研鑽に励みたいと考えています。

## 軟式野球部の活躍を嬉しく思う

関東支部幹事

田村 淳

(昭和55年卒)

昨年夏、もう一つの甲子園と言われる第59回全国高校軟式野球選手権大会(明石トーカロ球場)の準決勝で球史に残る伝説の一戦が行われた。みなさん覚えておられるであろうか。岐阜県代表の中京高校と広島県代表の我が崇徳高校である。両校譲らず4日間にわたる延長50回の熱戦が繰り広げられた。

30回終了時から報道が過熱し始め、45回に達するとニュースやワードショーが取り上げるようになった。私もそのころから1回ごとに更新されるwebサイトの経過を追って一喜一憂の連続だった。

なぜこのように延長記録になったかは、両投手がよかったのは言うまでもなく、軟式球は硬式球と違い、表面はゴム製で、中が空洞のため反発が小さく、潰れながらバットの上面側に滑っているため、捉えたと思ってもポップフライになることが多く、バントも簡単でなく、得点が入りにくいのである。

何より私が崇徳高校の軟式野球部に籍を置いたことがあるから、尚更この戦いが、騒がれ始めて軟式野球に全国から注目が集まったことに嬉しさと感動を覚え、選手達に感謝である。また、この戦いが単行本「延長50回の絆」(中大輔著)になっているので、永遠に語り継がれるであろう。

私は野球が好きだが、硬式野球部はレベルが高く、軟式野球部に入った。しかし、硬式野球部を諦めた中学時代にレギュラーだった人たちはばかりであった。練習時間の大半はランニング主体で練習場の大芝公園から北大橋、新こうへい橋、大芝橋を渡る旧太田川(本川)を周回する体育の授業でも走るコースで、1着の者からランニング終了で私は毎日6周以上走っていたと記憶している。土手を走るのコース全体を見渡せて息が抜けず、さながら陸上部のようで、練習終了近くにやっと外野の球拾いの毎日であった。運動をあまりしてない私には体力的に、あまり長続きはしなかった。今では息子の中学の時のおやじの会のメンバーで、たまに試合を楽しんでいます。

軟式野球部は今年も広島県大会を突破したと聞いている。OB達は遠くからでも応援しているので、選手諸君は西中国大会、全国大会に勝ち進んで大いに活躍していただきたい。



この度、弊社工場は自主的な衛生管理を推進すると共に、一定水準以上の食品衛生管理を行っている認められる施設として、広島県食品自主衛生管理認証を取得致しました。

株式会社 山 豊

〒731-3196 広島市安佐南区沼田町伴 79-2  
TEL 082(848)7778(代) FAX 082(848)2334

0120-311238

URL <http://www.yamatoyo.co.jp>e-mail [y-info@yamatoyo.co.jp](mailto:y-info@yamatoyo.co.jp)

心のこもった旬の広島菜漬「安藝菜漬」を、大切なあの方へ...



内閣総理大臣賞受賞  
農林大臣賞受賞  
農林水産大臣賞受賞  
H.14 S.50 S.46



あきな  
安藝菜

会 長 山本 豊 (昭和19年卒)  
代表取締役 山本 千曲 (昭和51年卒)